

大 学 図 書 館 周 題 研 究 会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

京都橘女子大学図書館 田北十生気付

(Tel) 075-574-4118

(Fax) 075-574-4124

大図研京都支部報復刻版発行！

創刊号～150号まで



いよいよ京都で行われる全国大会も間近になってきました。
大図研創立30周年記念の大会に向けて、京都支部では、支部報の復刻版
(CD-ROM版)を発行します。

創刊号は1978年10月28日に発行されています。150号は1997
年8月15日発行です。ページ数で1,000枚を超えるボリュームです。
約20年間の京都支部の歴史がここにあります。
完成次第会員のみなさんには、無料で配布します。

また、30周年を記念して、全国大会終了日迄に会員外には予約特価販売を
します。

特価 1枚 2,000円(原価2,500円)

*注文は最寄りの支部委員または、編集責任者の田北まで、メール又はFAX
Xをお願いします。大いに会員以外の方に購入してもらいましょう！
全国大会会場でも販売しています。会員以外の方も全国大会には参加できます
ので、誘い合わせて参加し、支部報復刻版の購入もしていただき
きましょう！

【新会員紹介】

中村敬仁 (なかむら・たかひと)

所属 京都橘女子大学図書館

中村氏の人柄は、今月号の「数珠つなぎ」を読んでください。

異色の新人のデビューです。よろしく

目	大図研京都支部報復刻版発行！……………1頁
	新会員紹介……………1頁
	第10回京都支部委員会と第6回大会実行委員会報告…2頁
	ブックマーク 会員のホームページ紹介編……………3頁
次	栗東町立図書館を訪ねて……………4頁
	5月の支部例会に参加して……………6頁
	数珠つなぎ(第51回)……………8頁

ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで
編集気付(kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp) 田北まで

第10回京都支部委員会
第6回大会実行委員会報告 (合同委員会)

第10回支部委員会

日 時: 2000年6月6日(火) 19:00 - 21:00

場 所: 京都大学附属図書館3F スタッフラウンジ

出 席: 篠原、堤、若井、中嶋、田北、呑海、菅、大館、大綱 (オブザーバー)

【報告事項】

1. 第3回支部例会および交流合宿

日 時: 2000年5月27日(土) 14:00 ~ 16:00 栗東町立図書館見学、
概要説明と質疑応答 (竹島昭雄館長)
19:00 ~ 交流会
5月28日(日) 10:00 ~ 12:00 水郷めぐり、近江八幡見物

参加者: 11名 (見学会のみ2名)

2. 会員情報 変動なし。

3. 財政情報 変動なし

【審議事項】

1. 支部報について

- 1) 6月号について 数珠つなぎ (編集担当者に一任) / 5月例会感想
- 2) 7月号について 数珠つなぎ (紀伊国屋書店から) / 全国大会準備状況
- 3) 8月号について 数珠つなぎ (他支部会員から)

2. 支部報復刻版の発行について

- ・業者提示の見積額である63万円 (消費税込み) で発注することになった。
- ・今後のスケジュールは次の通りとする。

6月14日 入稿期限、7月末 納品期限予定、発刊のことば (篠原さん担当)

3. 京都支部ホームページについて

- ・画像データを取り込んで編集する。

4. 次回支部委員会 7月4日(火) 19:00 -

第6回大会実行委員会報告

【審議事項】

自主企画、 担当者の以下のとおり決定。

- ・「地酒・利き酒の会」 担当: 若井
- ・「図書館を自由に語ろう」 担当・司会: 篠原

2. 会場の設備・機器環境

必要とする分科会は以下の通りであるが、もう少し具体的な調査をすることになった。

8月27日(日) <午前部>

- ・課題別分科会(2) 障害者サービス → デイジー録音図書の再生
- ・課題別分科会(4) 出版文化 → コンピュータ画面をスクリーンに投影できる
液晶プロジェクタもしくはそれに類似のものが必要。

ノートパソコンは持参 (中西印刷)

8月27日(日) <午後部>

- ・課題別分科会(9) 電子図書館 [part2]
インターネット接続環境が望ましいが、オフラインでも対応可。
- ・課題別分科会(10) オンラインジャーナル
インターネットの使用 + プロジェクター

8月28日(月)

- ・主題別分科会 理工系
インターネット接続環境が望ましいが、オフラインでも対応可。
- ・主題別分科会 生物・医学系 インターネットの使用 + プロジェクター
- ・主題別分科会 教育系

3. 大会運営の役割分担について

以下のとおり決定したが、補助協力者が必要なので、次回委員会までに候補者をリストアップする。

- ・実行委員長: 篠原
- ・事務局: 大館
- ・受付・財政: 菅、大綱
- ・会場 (設備・機器等): 若井、井上
- ・写真: 堤
- ・記念講演準備: 呑海 + 1名
- ・出版物販売 (支部報復刻版等): 田北
- ・大会速報: 田北 + 3名

4. 次回大会実行委員会 7月4日(火) 19:00 -



ブツクマール!

会員のホームページ紹介編



【第1回】

◎北十生 (たきた・かお) 京都橘女子大学図書館)

ホームページ名 アフロディーテ

URL <http://www2.justnet.ne.jp/~kazuodesu/index.hrm>

内容紹介

- 1.新着情報
- 2.アフロディーテの贈り物 →メインテーマの詩です。
- 3.詩集
 - 第1詩集「僕の涙がみえますか」
 - 第2詩集「あふるる涙を拭きにきて」
 - 第3詩集「青い狼」
 - 第4詩集「18歳青春そして人生の終焉」
- 4.連載小説 「風の谷」「恋女房」(現在連載中)
- 5.笑転 →お笑いのページ
- 6.恋人たちの森 →投稿詩のページ。
- 7.Rakko の日記 →表題の通り!
- 8.魔狼の森 →正義の味方?!
- 9.どんな時でも人生に YES を! →困難を乗り越えて力強く生きよう!
- 10.天を翔る! →人生讃歌!
- 11.投稿コーナー(訪問記念) →気軽に投稿してね!
- 12.「愛の女神アフロディーテ」バックナンバー →現在第51号まで掲載
メールマガジン[愛の女神アフロディーテ]は、下記より購読申し込みができます。
もちろん無料!

『まぐまぐ』は <http://www.mag2.com/>
マガジンのID 7206

『E-Magazine』 <http://www.emaga.com/>
当マガジンID ai

『ココデ・メール』 <http://mail.cocode.ne.jp/cgi-bin/mlsearch.fcgi>
当マガジンID kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp

『PUBZIN』 <http://www.pubzine.com/pubzy/tool/srchid.asp?keyword2=4242>
当マガジンのID 273

『melma!』 http://create.melma.com/cgi-bin/tool2/mag_menu
当マガジンID m00011105

- 13.お友達ーリンク集 →表題の通り!

栗東町立図書館を訪ねて

(第3回支部例会報告 1)



篠原俊夫

生憎の雨模様であったが、大図研京都支部の例会企画として実施された滋賀県栗東町立図書館見学会には他支部からの参加を含め13名が参加した。集合場所であるJR栗東駅から参加者の乗用車4台に分乗して町立図書館まで走る。

例外はあるかも知れないが、滋賀県の多くの町立図書館は交通至便の立地とは言えないだろうから、自動車で来館することを前提に設計されている。従って駐車場は広くとつてあることが多いのだが、この栗東町立図書館の駐車場も随分広い。その広い駐車場がほぼ満車状態で駐車場所を探さなければならないほど来館者があった。日曜日の午後2時頃と言えば、利用者にとって一番動きやすい時間帯なのかもしれない。

竹島昭雄館長に迎えられて館内に入り、館内見学は後回しにしてすぐに館長から図書館の概要について懇切な説明を聞いた。予期した以上に周到に準備された資料をいただくことができたので、滋賀県全体の図書館政策と町立図書館の位置づけについてよく理解できた。私は滋賀県の住民であるせいもあり、県立図書館の利用経験はあるものの、町立図書館については信楽町立図書館を見たことがある程度である。

私が滋賀医大に異動した時期から県立図書館通いははじめたわけだから、15年以上にもなる。滋賀県内の市立図書館は草津市立図書館を見学したことがあるくらいで利用の経験はない。大津市の住人だから大津市立図書館に行くべきところなのだろうが、生憎都市型の図書館で駐車場がないことと、県立図書館の資料が圧倒的に豊富であるという理由で最寄りの市立図書館を利用したことがない。

竹島館長のお話を聞きながら、県内の町立図書館の概要を数字で確認する。各図書館とも定員は殆ど有資格者で占められていて、職員構成から見た図書館のレベルの高さを実感する。栗東図書館は定員8名臨時職員6名ということで県内の町立図書館では規模が大きいほうである。ただ大津市、彦根市などの相対的に大規模な都市の図書館の方が職員のなかに司書のしめる比率が低くなる傾向があるようだ。因みに大津市は正規職員18名中、7名が司書、彦根市は9名中5名が司書である。町立図書館レベルでは、23館中16館で正規職員の全員が司書となっている。これは恐らく町立図書館が市立図書館に比較して後発図書館として建設されたという事情があり、時代が司書のいる町の図書館の整備を後押ししたということになるのだろうか。

栗東町が近畿のベッドタウンとして住民人口が増え続けていることから、今後とも図書館の規模は拡大を求められることになるのだろう。しかし、不況下で市町村の税収も伸び悩み中、サービスの拡大のために資料費と人員増が必要という図書館として当然の要求が簡単に認められる天国のような自治体はどこにもない。

参加者の関心も専らスタッフの養成と人材確保にあったようだ。新人スタッフの養成については係長をはじめとするベテラン職員があたり、そのための基礎的なプログラムは用意されているようだ。図書館の仕事全般についての知識と倫理について取得させることが

目的であると理解した。どこの図書館でも課題は定員増をいかに実現するかということである。あくまで正攻法で数字を並べ立て、いかに図書館がサービスの向上に努め、住民の支持を得ているか、理解されるまで議会や町長に働きかけることしかないのだろうか。

私たちはつい安易に議会向けの裏工作めいたことが有効かしらなどと思ってしまう。正直に言うと寝技も得意な図書館長でなければ自治体の図書館長はつとまらないだろうなという思いこんでしまう。

結論から言えば、いわゆる議員向けの個別の裏工作は一時的な効き目はあっても長期的にみれば、やるべきでないというのが竹島館長の考えである。そこで取引めいたものがあれば、図書館としてやりたくない代替条件を飲まざるを得なくなることが考えられる。これは正しい図書館サービスのあり方をゆがめる要因になりかねないというのである。やはり定員増に近道はないのである。日頃の図書館サービスの実績とたゆまぬ説得という正攻法しか手だてがないということを受得せざるを得なかった。

公共図書館のサービスは土曜日、日曜日の開館は言うにおよばず、いまや祝日開館を始めている図書館もある。県下で合計13台のブックモバイルも稼働して利用者の来館を待たずだけでなく、出かけて行くサービスにも努めている。利用対象となる住民も近隣の市町村にまで広げている場合もある。

しかし、この積極的なサービスを裏付ける職員体勢がない。地域住民に限らず利用させてくれる図書館は利用する側には魅力的でもサービスする側には破綻にいたる道と映ってしまう。栗東町立図書館も例外ではないと竹島館長は考えておられるようだ。厳しい条件のなかで最大限のサービスを提供するのが図書館員のあり方であろう。しかし、無理なサービスを提供することで体勢の根本が倒壊すれば何にもならない。そここのところの厳しい見極めが肝心なのだろう。

私たちがこのところ議論する機会の多い公共図書館のリクエストと重複購入本の問題についても意見を交換した。大学図書館の性格上、公共図書館のようにベストセラーを数冊から場合によっては数十冊も購入することはあり得ない。しかし、利用者の要求に応えることが至上命令である公共図書館では、同一の図書についてリクエスト5人毎に1冊の複本を購入しなければ、利用者の要求に応えることができないという。このリクエスト5人につき複本1冊購入というのは、全国的にもおおよその目安とされている数字のようだ。

重複本の購入については、大学図書館員に関する限り、公共図書館の考え方に両手をあげて賛成という人は少ないようだ。図書館の種別が違い、サービス対象が違うだけで複本という問題についてこうまで見解が分かれてしまうものだろうか。この問題についてはもう少し議論を深めてゆく必要があると感じた。

丁寧な説明と公共図書館運営の苦心談を興味深く聞いた後、閲覧室を見せていただき、栗東町立図書館を辞した。図書館見学を終えた後は、近江八幡市の長命寺近くの宿に泊まって8月に開催予定の大学問題研究会京都大会の準備に向けて、細かい検討を進めた。

私は深夜1時には就寝したが、熱心な参加者は3時頃まで侃々諤々の議論に時間の過ぎるのも忘れて熱中されていたようだ。

翌日は幸いに天候にも恵まれ、予定通り水郷めぐりと近江八幡の町並み見物を満喫した。



(しのはら としお 京都大学総合人間学部図書館)

5月の支部例会に参加して

(第3回支部例会報告 2)



祝 井 幸 枝

大学図書館に携わるようになって、1年が過ぎました。5月の例会が京都支部例会の参加2回目というまだまだ若葉マークです。

5月の例会は、滋賀県栗東町立図書館の見学でした。私は、公共図書館でのアルバイトの方が大学図書館での勤務歴より長いために、純粹に大学図書館員として話を聞いたかどうかは疑問ですが、とても今回の見学を楽しみにしていました。というのも、滋賀県の公共図書館のレベルはかなり高いものだとされているからです。その理由は竹島館長のお話で少し分かりました。

滋賀県では、平成元年より司書研修が県単位で行われているようです。市町村独自で司書研修を行うということは、かなり難しく、かといって、都道府県で研修を行なっているところは多くはないと思います。ここで、司書としての自覚を持たせようということのようです。さらに、自覚を持たせるために、栗東では辞令の際、「司書」と書かれているようです。

自覚の有無はやる気にも繋がってくるでしょうから、それは職員のレベルにも比例してくるのではないのでしょうか。こういったしっかりとした研修は公共だけでなく、どこでも必要だと改めて考えさせられました。

今回、竹島館長がかなり時間を掛けられ、熱く話して下さったことは貸出の件でした。

自動貸出機に疑問を投げ掛けておられました。「利用者に声掛けをすることで、職員が利用者に関心があるかを利用者に示すことができるのです。そして、そこでの信頼関係があってこそレファレンスができるのです。」というようなことを話しておられました。名札を見ると名前の上に「笑顔であいさつを（笑顔での後はちょっとうる覚えなのですが…）」と書かれていました。これが、「運営方針でもある”住民の求める図書館を自由に気軽に貸し出すこと”というのに繋がっている気がしました。

ところで、大学図書館でこのようなことをされているのは私は見たことがありません。私は現在、付属図書館にいるのではなく、大学院理学研究科数学図書室という専門的な所にいるので、大学図書館の貸出について正確な事は言えませんが、自分が利用者として行ったときに感じることはカウンターに近寄りやすいということです。これは私が今まで利用した大学図書館が悪かっただけなのかもしれません。しかし、私だけでなく、私が公共図書館で出会った利用者で、大学図書館に近寄りやすいから、公共図書館に来たという利用者も少なくなかったです。

「資料を求めるあらゆる人々やグループに対し、効果的にかつ無料で資料を提供するとともに、住民の資料要求を増大させる」ということが、公共図書館の本質的な機能です。年齢も様々な方が来られるので、サービスも富んでいます。

一方、大学図書館は、学習的機能と研究的機能を持ち合わせていて、学部学生の学習活動と教員の教育活動にサービスすることが求められています。公共図書館に比べて、利用

者は限られた人たちとなっています。

しかし、少子化の中、その大学の魅力をアピールするための一つの手段として、図書館充実は否めませんし、大学図書館を市民に公開するところが増えている中、利用者の幅は広がります。

だから、今回の貸出の件は一概にして、公共図書館だけのことではなく、大学図書館にも求められていることではなかったかと思わずにはいられませんでした。

見学当日は第4土曜日で、私たちが会議室に向かう途中でも「おはなし会」に向かう子どもたちでいっぱいでした。土日の公共図書館は猫の手も借りたいほど忙しいのですが、それにも関わらず、見学会を引き受けて下さった竹島館長をはじめとする栗東町立図書館の方々に感謝いたします。

『図書館概論』（JAL 図書館情報学テキストシリーズ 1） 塩見昇編、日本図書館協会、1998年

（いらい・さちえ 大阪大学大学院理学研究科数学図書室）

会費納入のお願い

1999年度会費未納の会員さんは、至急会費の納入をお願いします。
会費についての問い合わせは財政担当支部委員の中嶋スエ子さん、又は最寄りの支部委員又は、編集子までお願いします。

（数珠つなぎ 続き）

引越してきたTくんもいたためすぐに馴染めたことを覚えています。

野洲町来て15年間住み、現在は近江八幡市に住んでいます。（先日第5回例会で皆さんが水郷めぐりを楽しまれたところから車で10分かからないところに住んでいます。）

実は野洲町に引越したことで、中学生から現在まで唯一続けることができているものとの出会いがありました。それは、バドミントンというスポーツです。今でも最低週に1度はバドミントンをしていないと、どうも体調が優れないという体になってしまっており、現在31歳ですがいまだに現役？で試合に出ています。今でもバドミントンが続けられているのは、「勝つ喜び」「負ける悔しさ」を教えてもらったことと、社会体育での「人との出会い」であると感じています。

大学1回生のときに、中学時代の恩師に夜間に中学生の指導の手伝いをしてもらえないかとの打診がありました。（裏話：実際には、先生がすると夜間練習ととられて保護者から苦情が出るのでお願いできないかということでした。）私は、折角やるなら中高とバドミントンを続けていた仲間と社会人クラブとして立ち上げ、その中で中学生の指導を行おうと考え、野洲北クラブというクラブを立ち上げました。

クラブを運営し始めてはや13年、今では、その当時指導をしていた中学生にクラブの実質運営も任せることができるまでになりました。もう少し職場にゆとりがあればクラブをNPO法人化し、現在地盤沈下を起している中学高校のスポーツ活動に貢献できる組織作りを試みたいというのが現在の関心事です。

お読み頂いた方、お疲れ様でした。これを読んでいただければ、とりあえずは私の人となりわかっていただけるのではないかと思います。とりあえず原稿は出したので、次にすることは・・・おっとまだ会費を払っていない。早く払わねば。（7/4には、収めますのでこれが掲載される頃にはちゃんと会員です。）ということで、おしまい。

お読みいただいた方、本当にありがとうございました。

好評の連載コーナー!!

● 京都橘女子大学図書館

なかむら たかひと

● 大図研京都数珠つなぎ 第51回

中村敬仁 さん

はじめまして

はじめまして、京都橘女子大学図書館（図書館情報課）の中村敬仁と申します。この2000年5月1日付けで図書館に異動し、まだ1ヶ月という新人です。とは言うものの大学職員としては、10年目の私です。それまではずっと総務課（総務経理課）で仕事をしていました。

さて、この原稿の依頼を受けたときに初めて皆さんの原稿を見させていただき、……。しかし、上司である編集長の田北の依頼ということもあって原稿に穴をあけるのいけないと一念発起、まずは私のことを知ってもらわなければ話にならないのでまずは自己紹介でもさせていただきます、少し現在の興味関心について書かせていただこうと思います。

まずは外見、身長166cm、体重75kg、と肥満体型。足のサイズは26.5cmと現代人としては普通サイズといったところ。髪型はスポーツ刈りを少し長くした感じです。風貌はよく中国人に間違えられるので、似ているということなのでしょう。（横浜の中華街では、肉まんを売っていたかわいいお姉さんに「Are you Chinese?」と質問された経験を持ち、その3日後、祇園の飲み屋でお店のママさんに「失礼ですが華僑の方ですか?」とダブルパンチを食らった経験を持っています。）

さて、外見の次は中身ということで私の人生を少し振り返ってみます。

生まれたのは、和歌山県橋本市、時は昭和44年1月7日のことでした。生まれてから4歳までは京都市岩倉幡枝に住んでおり、ウルトラセブンが大好きな頃でした。その後、城陽市に両親が家を購入したため、初めての引越しを経験しました。もともと人見知りをする子だったのか、それとも3年制の幼稚園に2年生編入で入学したことの影響か、周囲になかなか溶け込めずにいた幼少時代。

今思い返せば、その当時の友人は2人AくんとSくんの二人そして近所のKくんの金魚の糞でもあった私でした。その当時大好きだったものは恐竜で、恐竜の図鑑や化石のひみつなどといった本をねだっては買ってもらいよく恐竜のことを調べていたことを覚えています。

小学校に入ってもそのことはあまり変わらず、好きな動物の絵を書きなさいといわれれば三葉虫を書くといった今で言うオタクの境地を開いていた子供でした。また、小学校の2年生のクリスマスには、軟式野球用のグラブをサントさんからプレゼントをもらいその当時造成中であった宅地のブロック塀に向かって黙々と投球練習をしている子供でもありました。

そのことがよかったのか悪かったのか、私を体育会系に向かわせた第1歩ともいえます。そして体育会系に向かわせる転機となったのが小学校3年生から体育で行うドッチボールでした。地域でもドッチボールが流行っており、そこで上級生が至近距離で投げたボールを頭を打ちながらもがっちり受け止めて離さなかったことからつけられたニックネームがなんと「死んでも離さない奴」でした。

これが私のスポーツに対する目覚め、自信が芽生えた頃でした。この頃から社交的にもなり友人もたくさんできた頃でした。しかし、小学校4年生の2学期には滋賀県の野洲町に2回目の引越しをしました。この頃は人見知りもそれほどではなかったのと、同時期に
(前ページ下部へ続く)